

世界と日本のナベヅル、マナヅルの状況

1 世界の状況

(1) ナベヅル (*Grus monacha*)

- ・ IUCN のレッドリストカテゴリー：絶滅危惧 類
- ・ 世界の推定個体数は約 11,500 羽(2006)
- ・ シベリアの南東部から中央部、中国で繁殖
- ・ 越冬地は日本、中国、韓国であり、特に日本の鹿児島県出水市では全体の 80%以上が越冬

主な絶滅リスク：越冬地での環境悪化等

- ◆ 中国、韓国：ダム建設、開発等による湿地の消失、農薬汚染、密猟など
- ◆ 日本：個体数の集中化による疾病や災害等発生懸念

図 1 ナベヅルの分布



【出典】IUCN Red List of Threatened Species. Version 2012

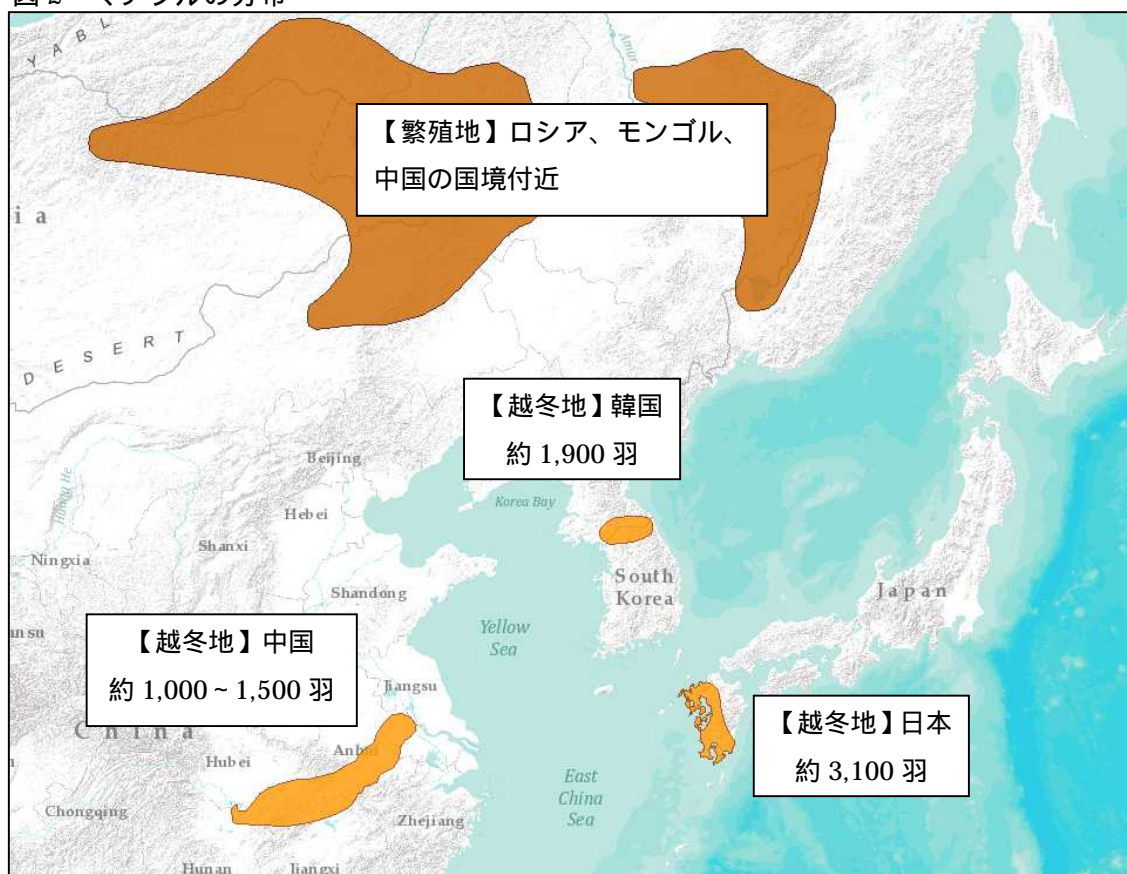
(2) マナヅル (*Grus vipio*)

- ・ IUCN のレッドリストカテゴリー：絶滅危惧 類
- ・ 世界の推定個体数は約 5,500 ~ 6,500 羽
- ・ ロシア、モンゴル、中国の国境付近、ロシア、中国のアムール、ウスリー川流域で繁殖
- ・ 越冬地は日本、中国、韓国であり、特に日本の鹿児島県出水市では全体の約 50% が越冬

主な絶滅リスク：繁殖地、越冬地での環境悪化等

- ◆ 中国、韓国：開発等による湿地の消失、干ばつ、家畜放牧、農薬汚染、密猟など
- ◆ 日本：個体数の集中化による疾病や災害等発生の懸念

図 2 マナヅルの分布

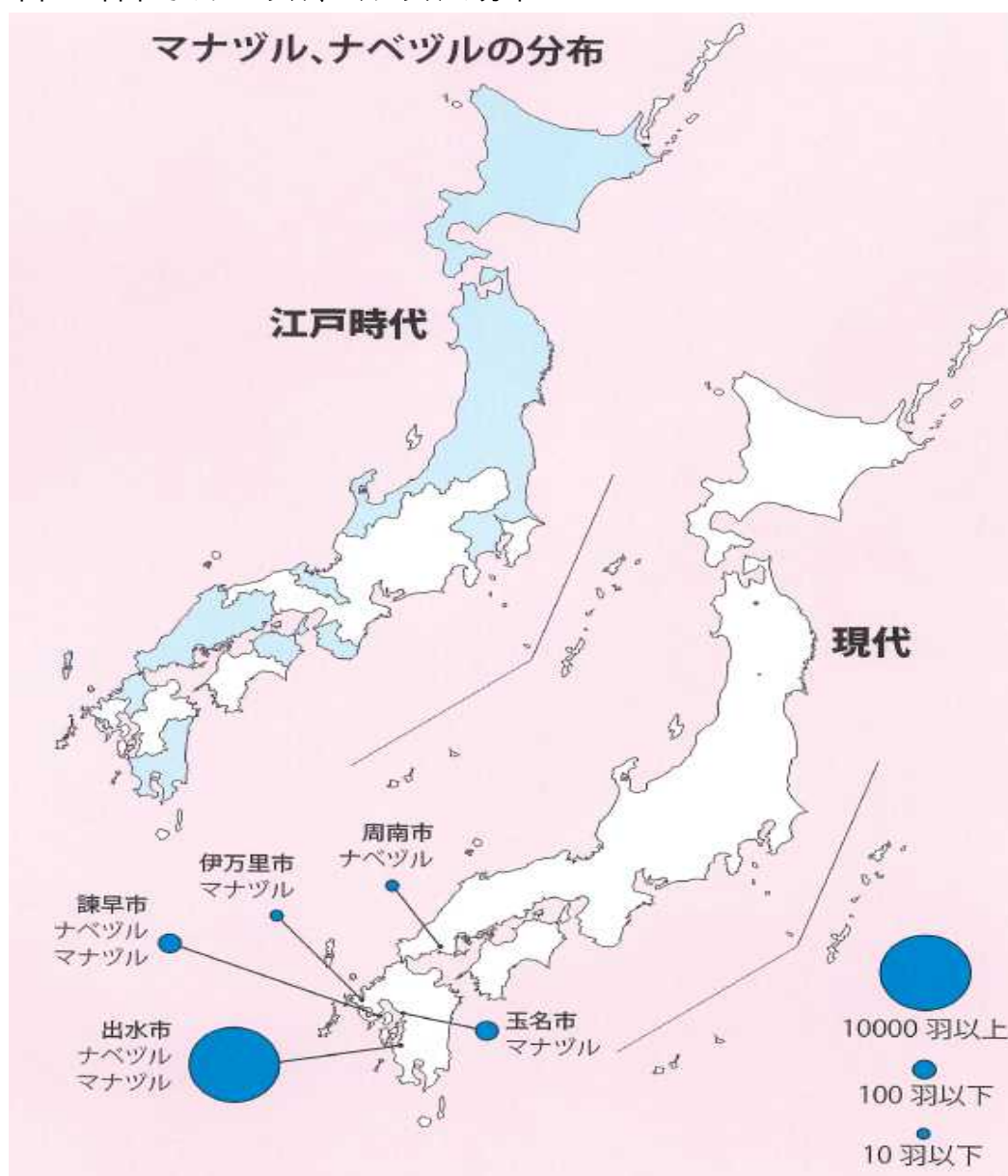


【出典】 IUCN Red List of Threatened Species. Version 2012

2 日本の状況

- ・ ナベヅル、マナヅルは、環境省レッドリストの絶滅危惧 類、種の保存法の国際希少野生動植物種に指定。
- ・ 日本以外の渡来地では、開発等の環境破壊が主な減少のリスクとなっているが、日本では特に出水市での長年の給餌等の保護活動により、近年の飛来総数は 1 万羽を超え、安定した飛来が認められている。しかし、一方で、集中化による感染症発生等による種の絶滅の危険性が指摘されてきた。
- ・ 日本での取組は次のステップに来ている ツル類が自然に飛来する環境を作っていくことが、全国での生物多様性の保全や地域振興につながる取組が重要。

図3 日本でのナベヅル、マナヅルの分布



【出典】久井貴世、ツル分散化パンフレット